

○ 本校の概要

通常学級11、特別支援学級4で児童数は301名である。東急池上線蓮沼駅、多摩川線矢口渡駅から徒歩圏であり、学校の周りには本校名のバス停留所が3か所ある。区内のどこに行くにも便利な場所にあり、商店や工場が混在するが、静かな落ち着いた住宅地である。学区が狭く、小規模校ゆえに、児童は日頃から、学級・学年の枠を超えて仲よく遊んだり、活動したりする姿が見られる。特別活動では、縦割りの良さを生かした活動が通年行われている。教職員はほぼ全ての児童の名前と顔が分かるなど、生活指導においても共通理解が図れ、一致した指導が進められる。確かな学力を育成するために、各学年で外部機関と連携した体験的な学習を実施し、人材を活用したキャリア教育を行ったり、IT機器の活用を図ったするなど多様な教育活動を行う。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組及び今後の改善策	コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:「学習することが楽しい」とアンケートで、回答した子どもの割合が90%以上。	4	個に応じた指導を算数学習中心に補習教室土曜補習で行うことができた。学校と家庭が連携し学習チェックシートの活用や連絡帳のやり取りでこまめに連絡を取り合うことにより、さらなる学力の向上を目指したい。また、区教研をはじめ都や外部団体の研修に積極的に参加することにより各教員の資質を高めた。	補習教室や、土曜補習を開催し、児童の学力向上に取り組んでいる様子は分かる。今後も継続して実施し、児童個々の向上につながるよう指導してほしい。 外国語活動や英語Cafeでネイティブスピーカーとふれ合う機会があり、児童たちの興味・関心は高いので、この学習意欲を維持・向上へとつなげたい。 学校と家庭が連携し学力の向上を図る必要性があるので、家庭へ向けて学習状況の情報を提供することは大切である。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3:「学習することが楽しい」とアンケートで、回答した子どもの割合が80%以上。			
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	2:「学習することが楽しい」とアンケートで、回答した子どもの割合が70%以上。			
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	1:「学習することが楽しい」とアンケートで、回答した子どもの割合が70%未満。			
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	「矢東学習スタンダード」			
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のまきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:「だれにでも気持ちのよいあいさつをする。」と回答した生徒の割合が90%以上。	3	授業規律を守ることやメンタルヘルスの実施、いじめの早期発見・組織的対応に関しては、全教職員が一丸となって意識し、取り組むことができた。一方道徳の授業に関しては、ゲストティーチャーの活用や体験的活動を積極的に授業へ導入することなど教材研究に課題がある。また、合わせてキャリア教育の充実も課題である。	地域行事に児童が積極的に参加する姿勢はよい。特に今年はガーデンパーティー会場校であったが、近年では稀に見る5千4百以上の人々が参加し活況を呈した。また、会場校である矢東小PTAの献身的な活動により、進行が円滑に進んだことは、ありがたいことであった。 朝の校内でのあいさつ運動は活発になってきたが、あいさつ運動を今後も継続し、郊外においてもあいさつ運動をさらに向上させたい。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3:「だれにでも気持ちのよいあいさつをする。」と回答した生徒の割合が80%以上。			
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	2:「だれにでも気持ちのよいあいさつをする。」と回答した生徒の割合が70%以上。			
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	1:「だれにでも気持ちのよいあいさつをする。」と回答した生徒の割合が70%未満。			
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。				
		豊かな人間性と創造力を育てるためにキャリア教育を推進する。				
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体カテストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	4:「進んで外遊びをする。」と回答した児童数の割合が90%以上	3	体力づくりに関しては、年間を通じマラソン、なわとびを中心に指導してきた。また、投てき力を上げるためにボールに親しむ時間やジャイアンツアカデミーの授業やソフトボール投げの練習を年間を通じ取り組むことを目標とした。常時活動に取り組むことのできる種目に関しては数値を向上させることができた。	体育指導補助員導入による、1・2年生の体力の向上や体育学習に興味・関心が高まり、意欲が向上し、運動能力が向上することに期待する。 生活リズムを維持し、規則正しい生活を送ることが大切であるが、高学年になるにつれて、就寝時刻が遅くなるのが気かりである。また、保護者が積極的に講演会に参加できるように機運を高めた。
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	3:「進んで外遊びをする。」と回答した児童数の割合が90%以上			
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	2:「進んで外遊びをする。」と回答した児童数の割合が70%以上			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	1:「進んで外遊びをする。」と回答した児童数の割合が70%未満			
		体力向上へ向けた、一学級一実践を行う。				
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:保護者アンケートによる「授業を評価する。」と回答した割合が90%以上	3	日常の授業の充実を図るために、教育環境の改善が急務である。特にICT機器を活用した授業をより普及させるために校内LANの整備及び大型画面による授業の実施など環境面の変貌により、見やすく分かりやすい授業の実現につながる。整備される前に、各教員が現状のICT機器を工夫して使いこなすことのできるスキルアップも併せて必要である。	「拳手をしてから発言をする。」「起立して発言をする。」「発言を最後まで聞く。」という授業規律が徹底されていないところも見受けられ、今後改善を要する。 校内の清掃活動が充実しているのみならず、環境ボランティアの自主的な活動により、ガーデニングを行い、四季折々の花が咲いている点が素晴らしい。地域の介護施設の利用者も花を見るのを楽しみにしている。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3:保護者アンケートによる「授業を評価する。」と回答した割合が80%以上			
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	2:保護者アンケートによる「授業を評価する。」と回答した割合が70%以上			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	1:保護者アンケートによる「授業を評価する。」と回答した割合が70%未満			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。				
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくり出す。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:保護者アンケートによる教育活動の公開度評価の割合が90%以上	3	日頃より学校の教育活動を積極的にアピールする必要性がある。今年度より配信を開始した、学校ブログは更新回数も多く、数多くの閲覧があった。一方各学年活動の紹介に関しては、学期に1回の更新に留まる学年もあり、今後課題を残した。より更新回数を増やす方向で次年度以降取り組む必要がある。	ほぼ毎日の発表であるが、ブログが開設されたことにより、学校の様子が身近に感じることができた。最初のうちは情報を更新しやすいが、今後も継続させるためには、校長のみならず、組織的にブログを運営することが望ましい。近隣の保育園や幼稚園、中学校と連携しながら、学校のよさを伝えることができるとよい。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3:保護者アンケートによる教育活動の公開度評価の割合が80%以上			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	2:保護者アンケートによる教育活動の公開度評価の割合が70%以上			
			1:保護者アンケートによる教育活動の公開度評価の割合が70%未満			

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。